

表紙・・・裏

これはみんなの住んでいる平野区の南の方の地図やけれど、大和川をはさんで両側に長吉川辺や瓜破南があって、変やなあと思えへんか?なんで瓜破や川辺はひとつの町なのに大きな大和川をはさんで分かれているのやろうか?

そうそう、言いおくれたけれど、わしは川辺八幡神社の境内にある楠の木や。

年は320才、御神木として大切にしてみろてる。

わしは若い頃からこのへんのことをずっと見てきたから、今日はみんなに、なんでこうなったのか話してあげよう。

表紙・・・裏

今からだいたい三百年位前の江戸時代、わしはまだ若木で 20 才(ハタチ)やった。

その頃、平野区のこのあたりは、川辺村・長原村・出戸村・瓜破村と呼ばれとってなあ、田んぼや畑がいっぱいあって、大和川は、今のよう長吉や瓜破を流れておらんかった。

神社のお社も、当時は若宮八幡宮と呼ばれとって、場所も今より、もうちょっと南寄りにあったんや。

そうやなあ、今の太和川の流れのまん中あたりやなあ。

わしは池のほとりにひとりで立っておって、村のみんなが田んぼや畑で一生懸命に働くのを見ておったんや。

表紙・・・裏

この頃の大和川は、今の柏原市のあたりから玉串川・長瀬川・平野川などに分かれて、河内平野を北へ向かって流れて、最後は淀川とつながっておったんや。

流れる水の量もたくさんあってなあ、今の八尾市や東大阪市あたりの田んぼや畑をうるおしとった。

それだけやないで、柏原船という、河内と大阪市内を行き来する舟が、お米や炭、肥料など当時の生活に必要な品物を運んでおったんや。

## 表紙・・・裏

けど、ええことばかりやのうて、今の八尾や東大阪のあたりでは、梅雨の時や、台風が来て大雨が降った時なんか、あっという間に水があふれて洪水が起きるんや。田んぼや畑が流されて、人や動物もおおぜい死ぬことがしょっちゅうやった。

そこで、今米村(今の東大阪市)の中甚兵衛と言う庄屋さんが中心になって、洪水の被害かみんなを救おうと考えて、大和川の流れを柏原から平野、住吉を通ってまっすぐに大阪湾へ流すように役所に願い出たんや(前ページの地図にもどって説明)。けど、新しい川の通り道になる村では、田んぼや畑が川の底に沈んだり、村が新しい川で分かれてしまうので、大反対がおこり、この案はなかなか認められへんかった。川辺村・瓜破村も村の中を川が通って、まっぴたつにされてしまうので大反対やった。

## 表紙・・・裏

新しい川の通り道になる村の反対はあったけど、大阪の河内平野全体から洪水を無くして、みんなが幸せに暮らせるようにするには、この方法しかない。

当時の役所は、川底になってしまう田や畑の持ち主には代わりの土地を与えることにして、1704年(宝永元年)に、中甚兵衛さんの案を採用して、とうとう大和川の付け替え工事にとりかかったんや。今みたいに、ブルドーザーやダンプカーもない江戸時代やから、クワやスキで土を掘り出し、2人がかりで天びん棒にかけて土を運んで土手を積み上げていったんや。そのために、この川辺村や瓜破村にも何百何千人もの人達が泊り込みで働いて、工事はどんどん進んでいった。

若宮八幡宮の両側にも土手が積みあげられて、お社が川底に沈んでしまう日が近づいてきたんや。

表紙・・・裏

この頃の若宮八幡宮さんは、世話をする人がおらなので、荒れはてておった。  
もうすぐ新しい大和川の川底に沈んでしまうのに、引越先も決まっていなかったん  
や。

そんなある日、北の枚岡明神の方からまっ黒な雲がわいてきてなあ、雷が鳴り続け  
て、七日と七夜、冷たい雨が降り止まんかった。

表紙・・・裏

あんまり長いこと雨が降り続いたもんやから、川辺村の田んぼは、だんだんと水浸しになってきよった。

心配になった村の者が、田んぼの見廻りをしとったら、後ろの方から声がした。「雨が降り止まんのは龍神さんの涙や。もうすぐ川の底に沈んでしまうのに、誰も引越先をさがそうとせんから、龍神さんが泣いてんや。雷が鳴り止まんのは、龍神さんが怒って叫んでいるんや。」

誰やろうと思ってふり向いたら、そこには案山子が立ってるだけやった。

村の者は、案山子が田んぼの神で、若宮八幡の神さんのひとりやと言われているのを思い出して、慌てて村のみんなに知らせにいったんや。

表紙・・・裏

この話を伝え聞いた村の人は、「今まで忙しいからと言って、八幡さんをほったらかして悪いことをしてしもうた。」と反省してな、大雨で水につかりかかったお社から御神体を輿に乗せて運び出し、まだ若かったわしのすぐそばに新しいお社を作ってお祀しなおした。

名前も新しく、川辺八幡神社になって、村のみんなに大切にされるようになったんや。

おかげでこのわしも御神木やゆうて、大事にしてもろて、この年まで元気で暮らしてこれたんや。

表紙・・・裏

今でも、毎年9月にある川辺八幡宮のお祭では、お神輿をかついだまま大和川へ入っていく「足洗い神事」と言う行事があるんや。

これは、もとのお社のあった場所で神さんに乗っていただくお神輿の「お清め」をやってるんやで。

みんな知っとったか？

それにまた、この日の花火大会はすごくきれいやで。

## 表紙・・・裏

新しい川の工事は難しい工事やったけど、柏原から堺までの 14 kmを機械も使わず、人間の力だけで、たったの 8 ヶ月で完成させてしもうたんや。

付け替えた新しい川に水が流れて、お社のあった所や畑も川底になってしもうたし、川頭村・瓜破村は川をはさんでまっぷたつになってしもたけど、今まで洪水で苦しんどった八尾や東大阪のお百姓さん達は、安心して暮らせるようになったそうや。この川辺村や瓜破村は、なんもええことがなかったようにも見えるけど、河内平野に住むみんなが洪水の心配をせんと安心して暮らせるようになったし、新しく出来た川ではえびや小魚・ジミがよう獲れるようになったんや。それに、ついこの間までは、春になったら新しい川の堤や川原にごさを敷いて、村のみんながご馳走を持ち寄って楽しむ「春ごと」というまつりもあってなあ。そら、みんな楽しそうやったで。

表紙・・・裏

これで、瓜破や川辺がどうして大和川をはさんだ両側にあるのかがようわかったや  
る。

元々あった村が、大和川の付け替えによって分断されたんや。

今の和川は、水も昔ほどきれいではないし、住んでる魚の種類も少なくなってし  
もうた。

土手や川原に空缶やゴミを捨てる人もおる。

せやけど、みんなはこの和川の水や川原を汚さんようにして、昔みたいに虫や魚  
がいっぱいおって、みんなが気持ちよく楽しめる場所にしていこうな。

わしも、八幡さんの境内からずっと見てるで。